

# がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

科名	適応がん種	レジメン名
	悪性リンパ腫	(R-)THP-COP
投与予定	休薬を含めて1クール	21日 6~8クール施行

Rp	薬品名	申請投与量	計算量	実際の投与量	手技・用法	投与時間	投与日(day -)									
							0	1								
1	生食	50ml			点滴静注	5分	↓									
2	(リツキシマブ施行時) 生食 + <input type="checkbox"/> メチルプレドニゾン or <input type="checkbox"/> ヒドロコルチゾン	20ml 40mg 100mg			静注		↓									
3	<input type="checkbox"/> 生食★ 施行有 <input type="checkbox"/> リツキシマブ 施行無	100/500ml 375 mg/m <sup>2</sup>	#REF! mg/body	mg/body	点滴静注	医師の指示通り	↓									
				★2回目以降90分で投与する場合は生食 250ml規格で →												
4	グラニセトロンバッグ プレドニゾン	3mg/100ml 40mg			点滴静注	30分		↓								
5	生食 ピンクリスチン	100ml 1 mg/m <sup>2</sup>	#REF! mg/body	mg/body	点滴静注	5分		↓								
6	生食 ピラルピシン	100ml 30 mg/m <sup>2</sup>	#REF! mg/body	mg/body	点滴静注	5分		↓								
7	生食	50ml			点滴静注	5分	↓	↓								
8	★プライミングフラッシュ生食必要★ 生食 シクロホスファミド	500ml 500 mg/m <sup>2</sup>	#REF! mg/body	mg/body	点滴静注	120分		↓								

Rp	薬品名	薬価最小組み合わせ	備考
3	リツキシマブ	内訳 100mg: 0mg 500mg: 0mg	1~4mg/mlに希釈調製し使用する。 初回: 50mg/hで開始、30分毎に50mg/hずつup。最大400mg/h。 2回目以降: 下記のいずれかに該当する場合は、当該注入速度を選択することができる。 ・初回投与時に発現した副作用が軽微であった場合、100mg/hで開始可、30分毎に100mg/hずつup。最大400mg/h。 ・臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微であり、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/μL未満である場合、90分間で投与可※ ※総液量を250mlとし、最初の30分は100ml/h、以後の60分は200ml/hで点滴
5	ピンクリスチン		1回投与量は最大2mg/bodyを超えないこと
6	ピラルピシン		[総投与量]950mg/m <sup>2</sup> を超えないこと

併用内服薬	用量(1日量)	用法	投与期間
プレドニゾン	40mg	分1 朝食後	day2~5
(リツキシマブ施行時) イブプロフェン	100mg	リツキシマブ 30分前	day0
(リツキシマブ施行時) d-クロルフェニラミン	2mg	リツキシマブ 30分前	day0

リツキシマブの投与日は変更になる可能性あり。  
別途ステロイドを使用している場合はリツキシマブの前投薬のステロイドは使用しない場合あり。day1のプレドニゾンは内服へ変更の場合あり。

備考	
----	--